

学識経験者（外部評価者）の総評

はじめに

「平成29年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」に対し、第三者の視点から外部評価を行うにあたり、津山市教育委員会及び関係者、そして市民の皆様が、教育委員会の多大な事業に関し、連携・協力しながら着実かつ意欲的に実施・推進されていることに敬意を表したい。

さて、津山市においては、「第1期教育振興基本計画（平成24年度～28年度）」の点検・評価を活用した見直しが行われ、平成29年2月に「第2期教育振興基本計画（平成29年度～33年度）」が策定された。平成29年度は、実施初年度に該当し、各事業の取組状況は、新規・拡充を問わず事業の特性に応じて概ね円滑に実施されており、安定した成果を上げていると言える。

全体としては、A評価が10%程度減少したが（評価A約60%・B約40%・C0%・D0%）これは各項目が見直された結果であり、初年度の取組としては大いに評価でき、今後5年間に向けての熱意も感じる事ができた。

点検・評価について

1【教育委員会の活動】（自己評価A）

新制度移行後2年が経過し、教育長が代表としての教育委員会の権限と責任が明確になっており、引き続き市民に分かりやすい教育委員会の運営に努めていただきたい。

2【教育委員会が管理・執行する事務】（自己評価A）

第1期から引き続き教育基本理念が継承されており、第2期計画に基づいて、9領域35の重点取組を中心に、諸施策が展開されている。レイマンコントロールの趣旨に基づき市民の声を適切に反映することや、教育の中立性を大切にしながらも「総合教育会議」等における市長部局との連携についても期待したい。

3【教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務】（自己評価B）

（1）個の確立とつなぐ力を育む <幼児教育>（自己評価A）

個の確立とつなぐ力を育む <学校教育>（自己評価B）

幼児教育の充実（自己評価A）

- 園児数の大幅な減少の中、幼稚園預かり保育事業の充実や幼児教育・特別支援教育等の指導力の向上が図られている。

今後、公立幼稚園12園を閉園し、新設2園の平成31年度開設に向けて、円滑なスタートが切れるよう期待している。

義務教育の充実（自己評価B）

- 国・県が実施する学力調査に加え、市独自の調査等学力の実態把握や授業改革推進チームを核とした「わかる授業」の推進など、確かな学力の向上に向けて、様々な取組が実施されている。

しかし、依然として学力の向上は大きな課題であり、目標とした成果がなかなか見られない実態がある。今後、更なる人的・財政的支援の充実が望まれる。

- 学校ICT（情報通信技術）環境の整備が進んでおり、機器を効果的に活用した指導法を確立させ、わかる授業・楽しい授業を目指していただきたい。
- 従来からの課題であった生徒指導や不登校対策については、学校は概ね落ち着いた

てきており、一定の成果を認めることができる。今後、スマートフォン所持率の高さによる情報モラル教育の充実など新たな課題に向けての取組も必要であろう。

- 朝食摂取率の向上や体力・運動能力調査の好結果など、健康教育や食育教育推進の効果が現れている。今後も子どもたちの望ましい生活習慣の確立や心身の健康に向けた取組を期待したい。

教育環境の充実（自己評価A）

- 小中学校の耐震率100%に引き続き、津山市学校施設更新整備方針に基づいた施設の大規模改修や空調設備の実施など、計画的・年次的な整備について大いに評価できる。今後も学校給食の安全性とともに、安全・安心な生活を送ることができるよう取組を目指していただきたい。

（2）身近な人々のつなぐ力を育む <家庭・地域教育>（自己評価A）

青少年の健全育成の推進（自己評価A）

心豊かにたくましく未来を拓いていく青少年を育成するために、青少年育成センターや鶴山塾、津山っ子を守り育てる市民の会、子ども会連合会など青少年健全育成団体が、連携を図りながら継続的な活動を続けている。今後、様々な課題を抱えた子どもたちやますます多様化・深刻化するであろう不登校・ひきこもり等の課題解決に向け、行政・学校・家庭・地域が連携を深めながら取組を推進していただきたい。

家庭・地域の教育力の向上（自己評価A）

- 学校支援ボランティアや図書館サポーターなど、子どもたちを支援する体制が整ってきている。家庭と地域の関係の希薄化という課題解決や家庭・地域の教育力向上のためにも、今まで以上に家庭・学校・行政が連携した教育の推進が必要であろう。

（3）過去から現在、未来へつなぐ力を育む <生涯学習・スポーツ・文化>

（自己評価A）

生涯学習環境の整備（自己評価A）

2年目を迎えた第4次津山市生涯学習推進計画が軌道に乗り、149もの事業が実施されている。

市民自らの積極的な活動は、市民参画が望ましい姿だと考える。そして、高齢化社会を迎え、一人ひとりが生涯を通じて学び、その成果が活かされるまちづくりが大切になってくるだけに、公民館活動や図書館などを中心に様々な学習機会が提供され、生涯にわたる学びの機会の充実に期待したい。

スポーツ活動の充実（自己評価B）

- 体育協会・スポーツ推進委員・スポーツ少年団などの関係機関や団体との連携を図りながら、競技力向上や生涯スポーツ人口の増加に向けた事業が実施されている。市民だれもが、生涯にわたりスポーツ活動に取り組める環境づくりが大切であろう。

芸術・文化活動の充実（自己評価B）

津山市美術館・博物館整備事業や文化センター整備事業など課題も多いが、洋学

や俳句・音楽分野など津山の誇る文化資源を活用した取組が、活性化の牽引車となることを期待している。

歴史文化の継承と文化財の保存・活用（自己評価B）

- 津山市は歴史的文化財の宝庫であり、津山城跡をはじめ城東地区・城西地区の取組など、歴史的風致の維持向上に努めている。策定に取りかかっている「歴史文化基本構想」を楽しみにしたい。

おわりに

外部評価を終え、教育行政は人づくりの中心を担うものであり、学校教育のみならず市民生活の充実、ひいては津山市の発展に大きく関わっていることを再認識させられた。

評価報告書については、いくつかの感想・意見を述べたが、全体として教育振興基本計画のねらいに向かって、諸事業が着実に成果を上げていると評価できる。

ただし、それぞれの部署の自己評価結果について、達成度の捉え方に差があるため、達成度に対する指標を明確にするなどの改善が望まれる。

教育については、課題も多岐にわたっており、取組もすぐに結果が出るものではないかもしれないが、長期的・短期的な面からの方向性を明確にしながら地道ながらも着実な取組を続けていただきたい。

最後に、津山市の教育に携わる教育行政・関係者及び市民の皆様の熱意と努力に対し、改めて敬意を表すとともに津山市の教育の更なる充実発展を期待したい。

はじめに

平成29年度に実施された教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告を部外者としての視点で検討評価させていただいた。津山市教育委員会関連の事務の管理・執行については、10年先を見通した津山市教育振興基本計画の第1期計画(平成28年度で終了)の成果と課題を検証して、引き続き策定された同第2期計画に基づき、新たな課題への対応も取り入れたきめ細かな執行状況であった。

ただ、概ね、自己評価のつけ方は納得できるものであったが、中には疑問を感じるような評価が見受けられたのが残念である。担当部署間、職員間で達成度の基準を共有することが必要と感じた。

それぞれの点検・評価について

1【教育委員会の活動】及び2【教育委員会が管理・執行する事務】(ともに自己評価A)

教育委員会は教育長を含む5人の委員が、幼児・学校教育、生涯教育の多様な分野を精力的に把握・研修され、地域の実情に応じた教育の振興を図られていると感じた。今後も教育の中立性、継続性、安定性を確保し、レイマンコントロールの趣旨に基づき合議制の執行機関として意思決定を行っていただきたい。

総合教育会議では、教育の条件整備や児童生徒の身体保護等緊急を要する措置など市長と一層の連携を図り、教育の充実に努めていただきたい。

3【教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務】(市長部局の職員に補助執行させる事務を含む)

(1-1) 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】(自己評価A)(市長部局の職員に補助執行させる事務)

幼児教育の充実(自己評価A)

幼児教育については、幼稚園再構築で2園の新設が工期の遅れはあるものの進められており、特別支援教育の充実や教育保育機関の連携も図られている。今後、閉園から開園に向けて、保育に支障が出ることのないよう新園舎への移行を円滑に進めていただきたい。

また、就学前のアプローチについて、アプローチカリキュラムは作成されているが、接続カリキュラムが課題として残っており、幼児教育担当部署と学校教育部署が連携を取りながら、完成させていきたい。

(1-2) 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】(自己評価B)

義務教育の充実(自己評価B)

○ 学校ITC環境の整備については、本年度から新規事業として重点取組に採用され、平成30年度には概ねの小中学校に導入されると聞いた。ここ数年来、津山市の児童生徒の学力の低迷が続いているが、デジタル化による視覚効果の高いわかる授業展開がなされ、他の主要事業との連動で、確かな学力の定着につなげていただきたい。

○ 登校支援員の配置や心理福祉の専門家の派遣など不登校傾向などの児童生徒・保護者にきめ細かい取組がなされている。平成30年度から順次新たな道徳の学習が始まっている。人権の観点から、自分の権利とともに他の人の権利も大切にすることが、共に幸せに暮らせることにつながることを理解し、ふるさと学習や情報モラル教育から社会生活者としての規範を身に着け、豊かな心の育成が図られればと願う。

○ 児童生徒の体力や運動能力は、全国平均を上回る項目が多い。また、朝食摂取率が上がったことは評価できる。今後も健康教育や食育を通じて、基本的な生活習慣の改善に取り組んでいただきたい。

○ 特別支援教育においては、平成25年9月の津山市特別支援教育推進センターの開所以来、特別支援教育の充実に向けた様々な取組がなされてきた。高く評価できるところである。今後も義務教育のみならず、保幼から小中までの連携を進め、通常学級における要支援児童生徒の教育支援計画の作成と活用を進めていただきたい。

教育環境の充実（自己評価A）

○ 教育環境においては、安全・安心の学校づくりとして耐震化工事に続き、学校施設更新整備方針に基づき大規模改修、空調施設整備等を年次的に取り組んでいる。空調施設については、平成31年度までには整備が完了するということが、今夏の猛暑を考えると、計画に沿って確実に整備をすすめていただきたい。

また、教育委員会の事務や活動を地域住民との双方向での情報受発信のため、インターネットを使った教育委員会独自のホームページ等の作成を期待したい。

学校給食に関しては、近隣の学校給食施設で異物混入やアレルギー事故発生の報道があったが、津山市においては安全性の確保、衛生管理の徹底を図り、安全安心に配慮した魅力ある学校給食の提供を心掛けていただきたい。

（2）身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】（自己評価A）

青少年の健全育成の推進（自己評価A）

青少年の健全育成の推進については、街頭指導等の地道な活動により一定の成果が上がっている。しかし、スマホなどの普及により社会全体も子供たちも変化してきており、自己評価がほとんどAであるということは、青少年の健全育成にかかる施策を考え直す時期が来ているということではないだろうか。

鶴山塾は相談を含めて児童生徒を受け入れる施設であったが、今ではノートを含めてアウトリーチ型の支援が求められている。時代のニーズで対応の方法は変わっても、子ども達の止まり木であり続けてもらいたい。

家庭・地域の教育力の向上（自己評価A）

学校・家庭・地域が連携して地域全体で子どもを支える環境づくりは、学校支援ボランティアの人数だけ見れば成果が上がっているように見えるが、学区内に公民館など活動の拠点がある学校とそうでない学校では成果に差があるように思う。また、働く親はなかなか親学講座等に参加できていないのではないかと。実効を検証しながら家庭・地域の教育力向上に取り組んでいただきたい。つやま子ども未来塾の実施など地域資源を活用した学習の推進が図られたことは大いに評価できる。

（3）過去から現在、未来へつなぐ力を育む【生涯学習・スポーツ・文化】（自己評価A）

生涯学習環境の整備（自己評価A）

生涯学習の推進は推進計画に基づき、公民館や図書館などの拠点施設の整備も含めて、着実に成果が上がっている。生涯学習は広範囲な分野であるが、今後もライフステージや現代的課題に対応した学習機会を提供して、老若男女を問わず、学び

の楽しさを享受し、心豊かに人とのつながりを深められるよう事業を推進していただきたい。

スポーツ活動の充実（自己評価 B）

健康づくり・体力づくりの観点からの「参加するスポーツ」は年々浸透が図られ参加者が増加している。平成30年度から10年間のスポーツ振興基本計画に基づき、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の機会を提供し、スポーツに親しむ機会の充実を図っていただきたい。また、スポーツ推進委員や指導員の確保に努め、生涯スポーツの振興、競技力の向上に努めていただきたい。

芸術・文化活動の充実（自己評価 B）

津山国際総合音楽祭の開催は、地域の音楽文化の振興が図られ、津山市の文化度を広く内外に発信し、経済波及効果をも生むことができた。市内の文化活動は多彩に行われているが、参加者の高齢化は否めず、今後若い人も参加しやすい事業に取り組んでいただきたい。各種文化施設は市民のニーズ等を踏まえて整備を進めていただきたい。

歴史文化の継承と文化財の保存・活用（自己評価 B）（市長部局の職員に補助執行させる事務を含む）

「歴史文化基本構想」の策定に取りかかったことで、文化財の保存と活用が図られることとなる。文化財を後世に継承し、学習資源として活用することは、大人はもちろん子ども達が郷土の歴史・伝統・文化を学ぶことができ、郷土愛を育むことにつながる。

合併後の新たな津山市としての「津山市史」も編さんが進んでおり、完成が待たれる。城跡の整備、国分寺跡公有化、重伝建地区保存修理などの事業も少しずつ進捗しており、美作国津山の往時の姿を彷彿とさせる日が遠からず来ることを期待したい。

おわりに

教育委員会の事務はこんなに多岐で広範囲なものであったかと今更ながら思ってしまった。命にかかわる事ではないが、人が人としてさまざまな学びを身に着け、どれだけ心豊かに健やかに暮らしていけるか、大げさに言えば、教育活動の取組みの幅、広さ、深さ、多さ、教育のメニューの一つ一つが教育を受けるその人の人生を彩りもし、歩きにくくもする。特に義務教育では多くの子ども達は学校を選べない。教育する側はそのことを肝に銘じ、子ども達の可能性を引き出してもらいたい。

津山市の教育理念「つなぐ力を育む」～あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて～ この短いフレーズが意図する理念を、教育活動に携わる人がそれぞれに理解し、個人という点から家庭・地域の面へ広がり、過去から未来へと時を超えて、まち全体で人を育む「つなぐ力」を培って、さまざまなものがつながりあうことが求められている。

教育を担当する一人ひとりの職員はもとより、教育委員会が一丸となって、「つなぐ力を育む」を具現化する人づくり、まちづくりに取り組んでいただき、愛情あふれるいきいきとした津山市であってほしいと切に願う。

